

平成 1 4 年度

独立行政法人国立美術館
国立国際美術館

実績報告書

目 次

国立国際美術館の概要
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1. 収集・保管
(1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況
(2) 保管の状況
(3) 修理の状況
2. 公衆への観覧
(1) 展覧会の状況
「常設展」
「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」展（企画展）
「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ プッリ フォンタナ」展（企画展）
「いま、話そう 日韓現代美術展」（特別展）
「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」（共催展）
「畠山直哉写真展」（企画展）
「現代美術への視点 連続と侵犯」展（特別展）
「目撃者 安斎」展（海外交流展）
(2) 貸与・特別観覧の状況
3. 調査研究
4. 教育普及
(1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況
(1) - 2 広報活動の状況
(1) - 3 デジタル化の状況
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業
(2) - 2 講演会等の事業
(3) - 1 大学等との連携
(4) 渉外活動
5. 新たな美術館の運営に向けた取り組み
6. その他の入館者サービス

国立国際美術館の概要

1. 目的

当館は、昭和52年(1977年)に文化庁の施設等機関として設置された四つの国立美術館の一つで、日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術作品、その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関連する調査研究及び事業を行うことを目的としている。

展覧事業については、常設展示と企画展示(特別展、企画展、共催展、近作展)の二本立てで運営している。内容は、現代美術を中心に、日本美術の成立と発展が世界の美術のそれと密接な関係を有することを美術作品の展覧を通じ、系統的具体的に明らかにするものである。また、日本と世界の現代美術の新しい動向をわかりやすく展示している。

資料の収集については、日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術に関する作品・その他の資料のうち、現代美術(主に1945年以降)を重点的に収集している。

調査研究については、現代美術に関する基礎的調査研究、企画展示及び常設展示に関する調査研究のほか、世界の現代美術界の動向等の調査研究も行っている。

このほか、展覧事業の広報・普及、調査研究成果の公表、美術に関する講演会等の開催などの事業も行っている。

2. 土地・建物

建面積	4,469 m ²
延べ面積	10,902 m ²
展示面積	屋内 3,668 m ²
	屋外 1,309 m ²
収蔵庫面積	332 m ²

3. 定員 16人

4. 予算 501,310,490円(人件費を除く)

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
 - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
 - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
 - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
 - (4) 外部委託の推進
 - (5) 事務のOA化の推進
 - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
 - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

実績

1. 業務の一元化
本部において、これまで行っている一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
 - (1) 光熱水量
本館においては、これまで実戦してきた室温の年間常温(夏季27、冬季25)や廊下・階段などの消灯によって、あらゆる場面での省エネルギーに対する職員の意識を確立しこまめに節電を行い経費節減を行った。水道料については、平成14年夏季は平年を上回る猛暑のため、屋外展示場にある池に藻が発生したため、例年より清掃が増えたためである。

ア. 電気 使用量	892,586kwh	(前年度比 95.81%)	料金	23,294,850円	(前年度比 93.95%)
イ. 水道 使用量	5,650 m ³	(前年度比 110.61%)	料金	965,587円	(前年度比 105.09%)
ウ. ガス 使用量	395.71 m ³	(前年度比 83.84%)	料金	48,706円	(前年度比 78.63%)
 - (2) 廃棄物処理量
館内LANの活用による職員周知文書や会議開催案内によりペーパーレス化を実施

ア. 一般廃棄物	10,340Kg	(前年度比 97.34%)	料金	228,000円	(前年度比 97.34%)
イ. 産業廃棄物	0Kg	(前年度比 - %)	料金	0円	(前年度比 - %)
 - (3) その他 古紙の再利用、OA機器のトナーカートリッジなどのリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用
講堂の利用率 3% (12日/365日)

・講演会	3日
・ギャラリートーク	1日
・ワークショップ	5日
・フィルム上映・シンポジウム	3日
4. 外部委託
下記の業務のほか今年度新たに、看視業務、庶務課業務、文書等運送業務の外部委託を実施した。

1 常駐警備業務	6 情報システム保守業務
2 機械警備業務	7 電気機械設備運転業務
3 清掃業務	8 ミュージアムショップ運営業務
4 レストラン運営業務	9 昇降機設備保全業務
5 集配金取次業務	
5. OA化
館内LANの整備状況
館内LANを利用した情報の共有及びメールを利用した通知・連絡により、ペーパーレス化を図るとともに、事務の効率化を図った。

- ・紙の使用量 138,000枚 (前年度比 122.67%)
 - A 4判 127,500枚
 - A 3判 16,500枚

6. 一般競争入札

- 一般競争入札 0件 (総契約件数 59件)
- 国際美術館では14年度契約では一般競争入札に付す案件はなかった。
- ただし、土地借料と陳列品購入費を除く。
- 美術館本来の業務に支障のない範囲内で、可能なものから外部委託に努めた。

7. 評議員会, 外部評価委員会

(1) 評議員会

- 開催回数 1回 (平成15年3月10日(月))
- 議事内容 平成13年度事業報告、平成14年度年度計画(案)
平成14年度予算概要、その他(新館進捗状況の報告)

8. 特記事項

(1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化

平成14年度までに人事記録, 給与計算事務の一元化, 及び会計経理事務についても, 予算配分案の作成, 会計システムの保守契約, 保険契約の各館の共通的な契約事務を本部で行っており, 平成14年度も情報公開制度の共通的な事務の一元化を行った。

(4) 外部委託の推進

平成14年度からは看視業務の外部委託のほか、年度途中で退職した非常勤職員の後任や、これまで職員が行っていた文書等運送業務についても外部委託を導入するなど、コスト面での積極的な効率化を目指した取組を行った。これらの実践は評議員会に報告するとともに、聴取した意見を参考に館の運営に反映させていくこと。

(5) 事務のO A化の推進

平成16年度新館への移転に向けて、館内の情報部会でさらなるO A化の推進を検討していきたい。

(6) 連絡システムの構築等による事務の効率化

平成16年度新館への移転に向けて館内LANの再構築を行っていく。

2 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善

則率行政法人特有の会計処理、消費税計算の概要の研修会を行い、職員の資質の向上を図った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

「1%の業務の効率化」目標については、前年度に引き続き十分達成することができた。
今年度より看視業務・庶務課事務(一部)・文書等運送業務を外部委託し、効率化を試みた。
省エネルギーの電気料等については、館内職員に隔々まで効率化の精神が行き渡りその結果、予想以上の成果を上げることができた。

【見直し又は改善を要する点】

省エネルギーのペーパーレス化については、館内LANの利用促進やコピー用紙の両面印刷などできる限り努力を行ったが、美術館という性質上、広報普及活動等におけるペーパー使用量をおさえることが予想以上に困難であった。この点を今後も詳細分析し効率化を図りたい。

今年度より看視業務・庶務課事務(一部)・文書等運送業務を外部委託し、効率化を試みたが、一部の契約については、思った程経費節減に直結しなかったため、この点を今後見直していきたい。
今後も業務運営の改善可能な事項の見直しに努め、効率化を引き続き維持していく必要がある。

【計画を達成するために障害となっている点】

本館においては、平成16年度に新館への全館移転を控えており、現状での可能な限りの業務運営の効率化を実施している状態である。

新館移転対応と現館での美術館通常活動を職員一丸となって遂行している。

このような状況下で効率化目標数値をクリアしている。

しかし、平成15年度からは移転事業が本格化し、全館あげて移転作業に従事しなければならない状況も予想される。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成 するためにとるべき措置

1. 収集・保管

(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

実績

1. 購入 285件

2. 寄贈 21件

3. 寄託 27件

4. 陳列品購入費 予算額 219,596,000円 決算額 220,771,900円

5. 特記事項

寄贈・寄託は収蔵作品の欠落を補う有効な方法であり、積極的にその推進に努めたところであるが、今後さらにその推進方策を検討していきたい。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

中期計画の収集方針に基づき、収蔵品の欠落部分を補い、陳列を体系的に充実させるため、美術作品等選考委員会及び評価委員会の審議を踏まえ、285点の美術作品を購入するとともに、寄贈作品についても同様の手続きにより、当館にふさわしい作品として認められた21点について、寄贈受入を行うなど着実に作品収集を行った。

主な作品としては、洋画では、写真や版画をすでに収蔵している瑛九の最晩年の作品《泉》(1959)とそれに先立つ作品《動物たち》(1956-57)の2点を収蔵した。また、1960年代の美術動向を検証する意味で、ダニエル・ビュレンの《定まらないフォルムの絵画》(1965)をはじめ、宇佐美圭司の《アクション・フィールド》(1964)と松谷武判の《繁殖65-24》(1965)を収蔵した。また、彫刻に分類しているが、絵画の問題とも密接に関連する李禹煥の初期の作品《刻みより》(1970)を収蔵した。李との関係でいえば、狗巻賢二の油彩や榎倉康二の写真を収蔵し、「もの派」周辺の作品を補完することができた。

彫刻では、すでにコラージュを多数収蔵しているクリストの初期のオブジェ《梱包された缶》(1958)をはじめ、ライト・アートの第一人者であるダン・フレイヴィンの《無題(親愛なるマーゴ)》(1986)などを収蔵した。

また、近年収集を充実させている写真の分野では、マン・レイ《レイヨグラフ》(1940)ほか11点、杉本博司《バルト海、リュージェン島》(1996)3点組、ソフィ・カルらの作品を収蔵した。同様にデザインの分野では、横尾忠則のポスターを203点、初期から近年のものまで収蔵した。

さらに、当館で開催した展覧会の出品作から、福嶋敬恭、松井智恵、木村友紀、サニー・キム、OJUNらの作品を収蔵した。

*添付資料

収集した美術作品件数の推移(定量的数値推移一覧表 p.1)

寄託された美術作品件数の推移(定量的数値推移一覧表 p.2)

(2) 保管の状況

中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

実績

1. 温湿度

展示会場

空調実施時間 9:30~17:00

温度 夏季 25、冬季 20 湿度 夏季、冬季 50%

* 入館者が入ったときの温湿度管理について

定期的な温湿度のデータ分析により、適宜対応している。

* 24時間空調を行わない理由

昼夜における温湿度の変化が小さいことと、現代美術という温湿度変化の影響を比較的受けにくい作品が中心であるため。

収蔵庫

空調実施時間 9:30~17:00

温度 夏季、冬季 22 湿度 夏季、冬季 55%

* 24時間空調を行わない理由

収蔵庫が地階にあり、昼夜における温湿度の変化が小さく、作品に与える影響が少ないため。

2. 照明

館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行っている。

3. 空気汚染

館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行っている。

4. 防災

監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行っている。

5. 防犯

監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行っている。

6. 特記事項

保存カルテ作成件数

0 件

評価結果に対する対応

年間を通じた適正な温湿度の管理により、作品の保存環境の整備に努めている。また、保存カルテの作成についても、継続的に検討していきたい。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

当館では、現代美術という温湿度変化の影響を比較的受けにくい作品が中心であることと、収蔵庫が地階にあるため昼夜における温湿度の変化も小さいことから、24時間空調は行っていないが、定期的な温湿度のデータ分析により、適正な保存環境の維持に努めている。

【見直し又は改善を要する点】

現施設における空調設備の監視装置が老朽化しており、温湿度の管理は有人監視による管理を行っている。新館移転を控え装置の機器更新は行っておらず、現状の装置で無人運転(24時間空調)の監視を行うには制御機能の信頼性に欠け、機器の焼損による火災が懸念されることから24時間空調は行っていないが、作品に応じた展示・保存方法等については、さらに検討したいと考えている。

(3) 修理の状況

中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

実績

1. 水彩・素描 1件

版画 3件

彫刻 5件

2. 決算額 4,412,654円

3. 修理経費 予算額 5,448,000円 決算額 5,192,204円

4. 特記事項

データベース化

修理内容の記録はあるが、データベース化については今後に向け検討していきたい。

修理業者への指導

修理方法等について、研究員が専門的立場から指導を行っている。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

中期計画に基づき、緊急に修理を必要とするものから計画的に修理を行った。

【見直し又は改善を要する点】

これまでの修理点数も少ないことから、データベース化には至っていないが必要性は認識しており、限られた人員の中での対応を含め、今後に向けて検討していきたい。

また、現代美術に用いられる素材が多岐にわたっているため、保存・修復の専門家との連携強化を図りたいと考えている。

*添付資料

修理した美術作品の点数(定量的数値推移一覧表 p.3)

2. 公衆への観覧

(1) 展覧会の状況

中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(国立国際美術館)

年5～6回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

実績(総括表)

1. 常設展

展示替 4回

2. 特別展・共催展・企画展 6回

中期計画記載回数：年5～6回

「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」展

「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ プリッリ フォンタナ」展

「いま、話そう 日韓現代美術展」

「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」

「畠山直哉写真展」

「現代美術への視点 連続と侵犯」

3. 入館者数 50,090人(目標入場者数 49,000人)

4. 海外交流展 1回

「目撃者：安斎」展 1,700人

5. 展覧会開催経費 予算額 97,755,000円 決算額 105,796,517円

6. 特記事項

現代美術という集客に結びつきにくい分野ではあるが、企画・内容等に工夫を凝らし、広く国民に優れた美術作品を観覧する機会を与えるよう努めた。特に常設展では、今年度よりテーマを設定した特集展示を行うなど、可能な限り多くの所蔵品を紹介するよう努めた。

また、各展覧会ごとの広報活動はもちろんのこと、小中学生の観覧料金無料化ポスターを独自に作成し、当館のみならず美術館全体の広報を行い、入館者数の増加に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

年度計画に基づき、4回の常設展と6回の特別展・共催展・企画展に加え、海外交流展を1回実施した。常設展においては、テーマを特定した特集展示を行い展示に工夫を加えたが、好評であったので今後も続けたいと考えている。また、特別展・共催展・企画展においては、我が国のみならず「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ プッリ フォンタナ」展、「日韓現代美術展」など、海外の作家も積極的に紹介するよう努めた。さらに、日本の作家を海外に紹介する試みとして、ポーランドの美術館と協力して写真家安斎重男の展覧会を開催したが、好評であったので今後も折を見て、日本の作家を海外に紹介したいと考えている。

【見直し又は改善を要する点】

入館者数については、目標入場者数をわずかに上回っただけであったので、より効果的な広報・宣伝活動を検討するなど、今後も継続的に取り組んでいきたい。

*添付資料

入館者数の推移（定量的数値推移一覧表 p.4）

入場料収入の推移（定量的数値推移一覧表 p.7）

「常設展」

方 針

受託品を含む館蔵品の中から定期的に展示替えを行い、第二次世界大戦後の日本及び欧米の現代美術について、可能な限り多くの作品を紹介することを目的としている。

実 績

1. 開会期間

平成13年12月20日～平成14年 4月 2日(83日間/うち平成14年度1日間)

平成14年 4月 4日～平成14年 6月 2日(53日間)

平成14年 6月 6日～平成14年 9月17日(90日間)

平成14年 9月19日～平成14年12月27日(86日間)

平成15年 1月 9日～平成15年 4月 1日(72日間)

計 384日間(平成14年度合計 302日)

(常設展のみの開催期間 55日間)

2. 会 場

地階、1階、2階展示場

3. 出品点数

126件

91件

84件

135件

67件

延 503件

4. 入館者数

50,090人(目標入場者数 49,000人)

うち常設展のみの入館者数 2,965人(目標入場者数 2,000人)

5. 入場料金

大人420円、大学・高校生130円、大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円

6. 入場料収入

(常設展のみの入場料収入の合計 408,370円)(目標入場料収入 311,000円)

7. 決算額 2,065,000円

7. アンケート調査(企画展等のアンケートに含めて実施している。)

(については平成13年度開催分であり、常設展に関するアンケートは実施していない。)

調査期間 平成14年 4月25日～平成14年 4月28日(4日間)

平成14年 6月20日～平成14年 6月23日(4日間)

平成14年10月10日～平成14年10月13日(4日間)

平成15年 1月23日～平成15年 1月26日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 439件

486件

406件

303件

アンケート結果 ・良い 44%(194件) ・普通 42%(185件) ・悪い 9%(39件)

・良い 50%(243件) ・普通 40%(196件) ・悪い 5%(23件)

・良い 32%(128件) ・普通 46%(186件) ・悪い 9%(35件)

・良い 48%(146件) ・普通 41%(125件) ・悪い 5%(15件)

8. 特記事項

常設展の充実を図るため、テーマを設定して特集展示を行うなど、企画・内容等について検討を行い、可能

な限り多くの所蔵品を紹介するよう努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

年間を通じ、当館の所蔵品を常設展示として広く一般の観覧に供している。年間4回程度の展示替えを行うことで、より多くの作品を展示することを心がけているが、さらに、現代美術は難解であるとの声に積極的に対応するために、6月開催分からテーマを設定して特集展示も行った。具体的には「日本のネオ・ダダ」「写真コレクション」「美術と物語」と題し、それぞれ1960年代の日本の現代美術の様相、20世紀における写真表現の展開、1980年代以降の絵画の様相をテーマとした特集展示を行ったが、これら特集展示は、観覧者の現代美術への理解の助けになるばかりでなく、このような展示を通して、観覧者が当館の作品収蔵方針を明確に理解できる点においても好評であったので、今後も続けたいと考えている。

「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」展（企画展）

方 針

福嶋敬恭は、その実績や作品に対する高い評価が定着しているにもかかわらず、活動の拠点を関西に置いていることもあって全国的には認知度の低い作家であり、彼の30余年におよぶ創作活動の軌跡を、初期の作品から近作までを紹介することで、作家の一貫した造形理念と問題意識の核心に迫るとともに、彼の活動を本格的に紹介し、再評価を求める契機とすることを目的とした。

また、現代美術に対する新しい世代のファン層を掘り起こすという点からも、展示方法等に工夫を凝らし、来館者の興味を引く展示になるよう考えた。

実 績

1. 開会期間 平成14年 4月11日～平成14年 5月28日（43日間）
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館
協 賛 （財）ダイキン工業現代美術振興財団
4. 出品点数 33件
5. 入館者数 6,229人（目標入場者数 4,000人）
万博公園内に位置することから、行楽に適した時期に展覧会が開催されたこと、会期中に無料入館日が4回あったこと、体験型の作品展示があったことなどが、目標を大幅に上回った理由と考えられる。
6. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、大人（団体）210円、大学・高校生（団体）70円
7. 入場料収入 711,820円（目標入場料収入 622,000円）
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
1960年代以降おもに関西を拠点として、さまざまな素材によるユニークな立体造形や平面作品など、幅広い創作活動を展開している美術家福嶋敬恭（1940年鳥取県生まれ）の初期作品から近作までを紹介した。
10. 講演会等
4回 参加人数 277人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告（JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出）、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
日本経済新聞 4月18日（夕）
京都新聞 4月20日 深萱真穂
読売新聞 5月 8日（夕） 木村未来
産経新聞 5月15日（夕） （早）
神戸新聞 5月18日 三上喜美男
文化庁月報 4月号 安來正博
月刊マナビイ 4月号 安來正博
月刊ギャラリー 4月号
月刊ギャラリー 5月号 作家インタビュー
ぴあ 4/22、5/7、5/20号
13. アンケート調査
調査期間 平成14年 4月25日～平成14年 4月28日（4日間）
調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。
アンケート回収数 439件
アンケート結果 ・良い 45%（196件）・普通 39%（171件）・悪い 13%（55件）
14. 特記事項
作品のコンセプト自体は、美術の空間性をテーマにした難解なものであったが、鑑賞者が親しみを持てるよう作品の選定、展示方法を考慮した。
広報活動としては、雑誌「月刊ギャラリー」の表紙と特集企画に取り上げられたことが大きく、これにより全国的な広報活動が行えたものとする。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今回の展示作品の中に、直径2m長さ12mのトンネル状の作品があり、鑑賞者が靴を脱いで通りぬけできたことから子供たちにも大変好評であり、現代美術作品になじみの薄かった人たちにも、美術鑑賞の楽しさ、現代美術の面白さをストレートに伝えることができた。

また、会期中に作家のフィルム作品の上映会も行い、多面的な創作活動を検証しながら、イベントとしても楽しめる企画となった。作家を招いての講演会でも、作家自身による非常に平易な表現での作品解説とともに、創作活動の背景についての興味深い話を聞くことができ好評であった。

【見直し又は改善を要する点】

作品解説のキャプション等について、もう少しわかりやすいものに工夫すべきであったことと、展示室の照明調整に制約があったことから、照度を自由に設定できなかったことが惜しまれるため、今後に向け改善を検討していきたい。

「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ ブッリ フォンタナ」展（企画展）

方 針

これまで戦後イタリア美術の紹介は、表現手法の突出した作家の紹介が中心になされてきたが、今回は、アフロという詩情豊かな戦後第一世代の抽象作品を加えることによって、イタリア戦後抽象の多様な展開を十全に紹介し、これまでの前衛的な表現一辺倒の戦後イタリア美術の評価の再考を促すとともに、広く世界の戦後の美術史に与えた影響を検証する試みであった。

実 績

1. 開会期間 平成14年 6月 6日～平成14年 7月21日（40日間）
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、イタリア外務省文化推進局、「日本におけるイタリア2001年」財団
後 援 外務省、在日イタリア大使館
協 賛 （財）ダイキン工業現代美術振興財団
協 力 アフロ資料館、パラッツォ・アルビッツィーニ・ブッリ・コレクション財団、
ルチオ・フォンタナ財団
4. 出品点数 65件
5. 入館者数 5,625人（目標入場者数 4000人）
「日本におけるイタリア2001年」関連企画として、イタリア外務省他の政府関係機関による宣伝協力が得られたこと、出品作家の多い展覧会であったこと、当館主任研究官が中学校に出向き、総合学習の時間に展覧会の説明を行ったこともあって、学校単位での観覧者が多かったことが、目標を上回った理由と考えられる。
6. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、大人（団体）210円、大学・高校生（団体）70円
7. 入場料収入 798,290円（目標入場料収入 622,000円）
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
1940年代後半から1960年代の世界の美術の流れにおいて、重要な役割を果たしたイタリアの3人の画家を紹介するとともに、多様な展開をみせた戦後イタリア美術の一断面を紹介した。
10. 講演会等
2回 参加人数 165人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告（JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出）、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
日本経済新聞 6月10日（夕） 加藤義夫
神戸新聞 7月 2日 三上喜美男
読売新聞 7月 2日（夕） 木村未来
産経新聞 7月 3日（夕） 早瀬廣美
THE DAILY YOMIURI 7月10日
Herald Tribune The Asahi Shimbun
7月13日
しんぶん赤旗 7月16日 中井康之
新美術新聞 6月11日号
ぴあ関西版 7月 1日号 山下里加
13. アンケート調査

調査期間 平成14年 6月20日～平成14年 6月23日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 486件

アンケート結果 ・良い 60%(291件) ・普通 33%(158件) ・悪い 5%(22件)

14. 特記事項

戦後イタリア美術を紹介するためには、先鋭的な技法を用いている作家達を紹介するのがこれまでの常套的な手法であったが、今回は、詩情的な抽象画家を加えることによって、その多様な一面を紹介した。

また、中学校の総合学習として美術鑑賞教育を実施している中学校に出向き、質疑応答を受ける形で、今回の「イタリア抽象絵画展」ばかりでなく、広く抽象絵画全般にわたる解説を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

上記のような方針で展覧会を試みることによって、一般の美術愛好家にも興味を持っていただくと同時に、専門の研究者に対しても、これまでの前衛的な表現一辺倒の戦後イタリア美術の評価の再考を促す展覧会となった。

【見直し又は改善を要する点】

児童生徒に抽象絵画を理解してもらう一つ的手段として、総合学習の時間に一部の中学校で作品解説を試みたが、より多くの学童への普及を考えるには、図工・美術教諭へのティーチャーズ・ガイドを製作したり、あるいは当館が導入しようとしているインターンシップ・スタッフなどによって解説を行うなど、効果的な普及活動について検討したい。

「いま、話そう 日韓現代美術展」(特別展)

方 針

90年代を中心に活躍した作家から、日韓各6名ずつ選定。作品のジャンルは平面の他、ビデオを用いたインスタレーションも含めて多様な表現を目指した。とりわけ、今回はあらかじめの取り決めにより、女性の作家達に注目し、女性の側からの芸術へのアプローチを探った。国籍や性の違いによる既成の概念にとらわれることなく、個々の作家活動に注目し、彼女らの優れた制作がいかにかに私たち見る者を攪乱し、静かな衝撃を与えながら、世界の見方を変えて行くのか、といった点を重視しつつ、作家・作品選定を行い展示した。

実 績

1. 開会期間 平成14年 8月 1日~平成14年 9月10日(36日間)
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、韓国国立現代美術館、(財)ダイキン工業現代美術振興財団
協 力 国際交流基金、旭硝子株式会社
4. 出品点数 110件
5. 入館者数 5,107人(目標入場者数 5,000人)
目標入場者数とほぼ同数の入館者数であったが、ワールドカップ終了後の猛暑期間の開催であったことと、過去の韓国展の実績から比して、悪い数字ではなかったと考えられる。
6. 入場料金 大人830円、大学・高校生450円、大人(団体)560円、大学・高校生(団体)250円
7. 入場料収入 1,246,490円(目標入場料収入 1,556,000円)
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
日本と韓国で現在活躍中の女性作家各6名ずつ、計12名によるグループ展。2002 FIFAワールドカップの共同開催に際し、日韓国民交流年記念事業の一環として、日韓の相互理解がより一層深まることを願いつつ企画した。
10. 講演会等
2回 参加人数 120人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告(JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出)、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

統一日報	8月 1日	
朝日新聞	8月 8日	
神戸新聞	8月 9日	三上喜美男
毎日新聞	8月15日(夕)	岸 桂子
産経新聞	8月19日(夕)	早瀬廣美
共同新聞	8月20日	
日本経済新聞	8月22日(夕)	中野 稔
朝日新聞	8月30日(夕)	
京都新聞	8月31日	深萱真穂
読売新聞	9月 4日(夕)	木村未来
朝日新聞	9月 5日	森本俊司
Cabiネット	7月15日号	
文化庁月報	7月号	
Manabee News	No. 14	

美術手帖	8月号	
Lmagazine	No. 310	
書道界	8月号	
ともも	No. 13	
ぴあ関西版	8月9日号	山下里加
KANSAI TIME OUT	August	
月刊韓国文化	9月号	
埼玉県近代美術館ニュース秋号		Y. M.

13. アンケート調査

調査期間 平成14年 8月22日～平成14年 8月25日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 328件

アンケート結果 ・良い 53%(173件) ・普通 38%(126件) ・悪い 8%(25件)

14. 特記事項

開催日程が夏休み期間と重なることも考慮して、小学校低学年にも分かりやすい解説を会場で無料配布し、カタログとは別に各作家・作品について解説した小冊子も作成し、これも無料配布を行った。子供から大人まで親しんでもらえるよう、出品作家の提案を受けて会場の外に塗り絵のコーナーを設け、韓国で実施した塗り絵と並べて会期中ホールに一部を展示した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

日本と韓国の90年代以降の現代美術の一側面を提示するという意味で、これまでにあまり紹介されていない作家の優れた表現を取り上げ、実り豊かな成果が得られたと考える。特に日本側の6名の作家達は、これまで韓国で紹介されたことがなかったため、当地での注目度が高かった。また韓国の作家についても、伝統的な手法を用いる作家とは異なる人選であったため、韓国美術についての新鮮な印象が得られた。

また、パートナーとなった韓国国立現代美術館と国立国際美術館が、企画段階から協同作業に直接関わり、作家や学芸員の人的交流も活発に行われ、今後の展望も含めて有意義な催しとなった。

「20世紀版畫の巨匠 浜口陽三展」(共催展)

方 針

従来の「浜口陽三」の芸術に、「東洋的美意識」をみるばかりでなく、浜口の残した多くのデッサン、試し刷りを、その完成作品と一緒に展覧することによって、鑑賞者に実証的に、浜口芸術が結実した過程を見せることを、今回の展覧会の基本的な方針として取り組んだ。また、同時に、これまで知られることの少なかった滞欧時代の浜口に対する評価を、多くの資料を提示することによって明らかにするところがあった。

実 績

1. 開会期間 平成14年 9月19日～平成14年10月27日(34日間)
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、日本経済新聞社
協 賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団
4. 出品点数 270件
5. 入館者数 7,309人(目標入場者数 20,000人)
本展覧会は、日本経済新聞社との共催事業であったが、同社の当初目標入場者数に見合うだけの宣伝が欠けていた点が、目標数に到達しなかった主な要因である。
6. 入場料金 大人1200円、大学・高校生800円、
大人(団体)1000円、大学・高校生(団体)600円
大人(前売)1000円、大学・高校生(前売)600円
7. 入場料収入 900,940円(目標入場料収入 3,111,000円)
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
2002年12月に浜口陽三が亡くなって以降、初めての本格的な回顧展であると同時に、作家が手元に残していた、版画作品の試し刷り、下描き、アイディアスケッチ、デッサン、クロッキーなど、これまで殆ど公開されることのなかった資料を同時に展覧した。
10. 講演会等
2回 参加人数 140人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告(JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出)、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
日本経済新聞 9月 3日(社告)
日本経済新聞 9月19日(夕)
染色新報 9月26日
神戸新聞 9月28日 (無署名)
朝日新聞 9月28日(夕) 森本俊司
日本経済新聞 9月28日(夕) 中野 稔
河北新報 10月 6日
日本経済新聞 10月10日(夕) 加藤義夫
毎日新聞 10月11日(夕) 岸 桂子
産経新聞 10月23日(夕) 早瀬廣美
読売新聞 10月24日(夕) 木村未来
文化庁月報 9月号 中井康之
メイプル 11月号

てんぴょう 014号/2003年冬号 藤田令伊
フェルメール美術館 <http://www4.ocn.ne.jp/~artart/index.html>

13. アンケート調査

調査期間 平成14年10月10日～平成14年10月13日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 406件

アンケート結果 ・良い 32%(128件) ・普通 46%(186件) ・悪い 9%(35件)

14. 特記事項

今回、浜口の没後初めての本格的な展覧会を企画するにあたり、初期から晩年に至る作品だけでなく、作家がアトリエに残した多くのデッサン、試し刷りといった未公開の作品資料を同時に展覧することによって、浜口芸術がどのように成立していったのかを実証的に検証できるよう努めたが、入館者数については目標数値に到達しなかった。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今回の展覧会では、これまで研究者に対しても知られることの少なかった、未公開の多くのデッサンや試し刷りを、完成した作品と一緒に展覧することによって、一般の鑑賞者に興味を持っていただくと同時に、専門の研究者にも貴重な資料を提示できる貴重な機会となった。特に、浜口が具体的な作品の為ではなく、自分の研究として残した色彩と形による秀作類が、多くの方々には知られざる浜口として受け取られた。また、浜口芸術が結実したと思われる、第二期パリ時代の文献資料などを可能な限り編集し、同展図録に収録したことによって、従来知られることの少なかった滞欧時代の浜口芸術を研究するための基礎資料を提供することもできた。

さらに、今回の展覧会を皮切りに、当館が企画した「浜口陽三展」の巡回が行われ、当館所蔵の270点にのぼる浜口作品が、国内4ヶ所の美術館において観覧に供されることとなり、浜口を広く紹介する絶好の機会となった。

【見直し又は改善を要する点】

今回は、浜口を取り上げた当館での本格的な企画展としては二度目の展覧会となる。多くの資料を提示することによって前回の「浜口展」とは異なる展示であったが、広報の大部分を共催する新聞社に頼り過ぎていたため、そのことを上手く広報できなかったことが、目標入場者数に達しなかった一因であるかもしれない。共催者との広報の役割分担についての取り決めなど、今後の課題として検討していきたい。

「畠山直哉写真展」(企画展)

方 針

現代日本の写真は近年、海外で注目を集めている。なかでも畠山直哉はその筆頭で、日本で個展を開催する絶好の時期であった。

また、畠山は「写真とは何か」という原点に、絶えず立ち返って自分の写真を撮り続けている写真家で、デジタル時代へと移行している写真界の現状に、一石を投じる意味もあった。

本展覧会の対象とした層は、現代写真に関心のある若い世代を中心にしながらも、広く美術に関心のある人々をも念頭に置いた。

実 績

1. 開会期間 平成14年11月 7日～平成14年12月17日(36日間)
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館
協 賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団
4. 出品点数 80件
5. 入館者数 6,963人(目標入場者数 4,000人)
写真展ということもあって、事前広報のターゲットが絞りがやすく、広い年齢層に受け入れられたことが、目標入場者数を大幅に上回った理由と考えられる。
6. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円
7. 入場料収入 865,600円(目標入場料収入 622,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
国内外で活躍著しい写真家、畠山直哉(1958年岩手県生まれ)の個展。初期から新作までを簡潔に網羅して紹介した。
10. 講演会等
3回 参加人数 500人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告(JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出)、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

artscape	8月～9月	木戸英行
産経新聞	8月11日東京版	島 敦彦
読売新聞	8月25日	前
朝日新聞	9月 4日(夕)	田中三蔵
ギャラリー	9月号	
文化庁月報	10月号	島 敦彦
エスクァイア日本版	10月号	青野尚子
Fresheye	10月18日号	今野裕一
てんぴょう	秋号	和田浩一
Kansai Scene	11月号	
Pen	10月 1日号	川上典李子
ストリート・アートナビ	11月 7日	中田耕志
芸術公論	11月号	
神戸新聞	11月15日	三上喜美男

京都新聞	11月16日	深萱真穂
ぴあ関西版	11月18日号	山下里加
Kansai Time Out	11月号	Christopher Stephens
AERA	11月25日号	原 久子
日経新聞	11月26日	高梨 豊
日経新聞	11月28日(夕)	
朝日新聞	11月28日(夕)	森本俊司
アサヒカメラ	12月号	飯沢耕太郎
The Daily Yomiuri	12月 4日	
産経新聞	12月 4日(夕)	早瀬廣美
毎日新聞	12月 6日(夕)	岸 桂子
ぴあ関西版	12月16日号	古川 誠
AIT news	12月25日	日高 優
美術手帖	1月号	佐藤守弘

13. アンケート調査

調査期間 平成14年11月 8日～平成14年11月11日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 570件

アンケート結果 ・良い 66%(375件) ・普通 26%(151件) ・悪い 3%(16件)

14. 特記事項

畠山直哉の写真は見た目に難解なところがなく、むしろ写真と現代社会との関係や接点を探るものである。撮られた写真はどちらかといえば、見慣れない光景が多いが、不思議な魅力と美しさをたたえて、観客を引きつけた。また、写真への関心層が老若男女を問わず幅広いため、写真関連のギャラリーや専門学校・大学などへの広報活動を積極的に行った。その結果、個人だけでなく学生の団体の来館も目立った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

40歳代の写真家の個展は日本の美術館では珍しく、写真の関心層に幅広く受け入れられた。巡回先の岩手県立美術館と協同して作成した図録についても、コンパクトな体裁で楽しく親んでもらえた。

【見直し又は改善を要する点】

展示室の照明が、機器の不備や室内の構造上の問題から、必ずしもベストとはいえなかったのが惜しまれた。今後の課題として検討していきたい。

「現代美術への視点 連続と侵犯」展（特別展）

方 針

本展は、「連続と侵犯」というタイトルのもと、美術の歴史に連なりつつまたそこへの侵犯を画策するという困難を正面から受けとめ、転換期のスリルを予感させながら、いま、充実した仕事を繰り返している10作家の作品を見るものである。それらの作品は、「つくること（creation/fiction）」、「コミュニケーション」、「共通感覚的体験」という互いに密接に関連し合う3つの観点から選ばれた。

実 績

1. 開会期間 平成15年 1月16日～平成15年 3月23日（58日間）
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、東京国立近代美術館、（財）ダイキン工業現代美術振興財団
協 力 日本航空、中部電磁器工業株式会社
4. 出品点数 43件
5. 入館者数 15,892人（目標入場者数 10,000人）
絵画・彫刻といった伝統的なスタイルの作品だけでなく、音響、ビデオ、インスタレーションなど多岐に渡る表現方法の作品が並んだこと、東京国立近代美術館からの巡回ではあったが、いくつかの作品が東京とは異なるインスタレーションとなり、当館の建物の特性を生かした展示が実現し、東京展と趣の異なる展覧会とすることに成功したこと、会期中の3月16日が万博公園無料デーで、来館者に向けての抽選会イベントを実施するなどの積極的な広報活動が実り、広い層の人々の来館があったことが、目標入場者数を大幅に上回った理由と考えられる。
6. 入場料金 大人830円、大学・高校生450円、大人（団体）560円、大学・高校生（団体）250円
7. 入場料収入 2,416,340円（目標入場料収入 1,556,000円）
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
本展は、東京国立近代美術館において1984年以来企画されてきた「現代美術への視点」シリーズの第5回目にあたるもので、当館との共同開催の展覧会であった。出品された作品の方法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオ、音響など多様ではあったが、皆、美術の根源にある、つくること、そして見せることについての深い問いかけの結果としてあり、その開放的なあり方は知的刺激に富み、また、さまざまな角度から楽しめるものでもあった。
10. 講演会等
2回 参加人数 105人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告（JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出）、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等
（東京展のみに触れた記事は割愛）

毎日新聞	1月22日（夕）	井辺サヤカ
日本経済新聞	2月1日（夕）	中野稔
朝日新聞	2月15日（夕）	森本俊司
京都新聞	2月22日	太田垣實
読売新聞	3月5日（夕）	木村未来
毎日新聞	3月6日（夕）	岸桂子
産経新聞	3月12日（夕）	早瀬廣美
新美術新聞	12月11・21日合併号	
新美術新聞	1月21日	中村敬治
芸術新潮	12月号	
月刊マナビイ	12月号	平芳幸浩（当館研究員）
美術手帖	1月号	小倉正史

KANSAI TIME OUT	January	
ぴあ関西版	1月27日号	山下里加
WEEKLY AERA	2月10日号	橋本麻里
Examiner	3月号	
AXIS	3 - 4月号	青木淳
SAVVY	4月号	山下里加
Meets Regional	4月号	清水穰
Artforum.com		Emilie Renard
めっちゃE!	2月最終週	全国UHFチャンネルにて放送 神戸サンテレビ2月28日放映

13. アンケート調査

調査期間 平成15年 1月23日～平成15年 1月26日(4日間)

調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。

アンケート回収数 303件

アンケート結果 ・良い 60%(182件) ・普通 33%(99件) ・悪い 3%(10件)

14. 特記事項

現代美術により関心を持ってもらうため、本展では広報印刷物のデザイナーとして音楽業界などで活躍の目覚ましい中島英樹を起用し、従来のものとは異なる斬新な図録を作成したり、強い関心を引き起こすポスター・チラシ作りを行った。それらの成果は、目標入館者数を大きく上回ったということと、通常よりも高い割合で図録が売れ、増刷分も含めて会期中に完売したことやチラシに掲載された作品に惹かれて来館したという声も多かった。また、広報活動として雑誌「ぴあ」のアート欄のみでなく、より一般読者向けのページに広告記事を打つなどして、積極的に美術館の活動の広報に努めた。本展に対する関心の高さは取材の多さにも現れており、大手の各新聞やテレビ番組に取り上げられるなど、メディアへの露出も多く、広報活動がとりわけ活発に行われた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本展の特色ある取組みとしては、美術館エントランスのガラス部分及び屋外展示場の芝生部分を展覧会の作品設置場所として利用することによって、建物全体を巡りながら展覧会を楽しんでもらえる形を作り出したことが挙げられる。

また、教育普及事業と連動し、本展出品作家である高嶺格を子どものためのワークショップの講師として招聘し、出品作品で用いたコマ撮りビデオの手法をワークショップで子どもたちとともに実践した。これは、ワークショップとしての意義のみにとどまらず、出品作品の制作の実際を見てもらうという意味でも非常に意義深い試みであった。

作品の設置にあたって会場となる美術館空間の特性を考慮に入れるため、1970年の大阪万国博覧会開催時に建設された国立国際美術館の建物の特徴を生かした作品展示となり、東京国立近代美術館で開催された展覧会の単なる巡回ではなく、東京展とは印象の異なる独自の趣を持った展覧会となった。

【見直し又は改善を要する点】

本展は、音響を用いた作品が多く、その意味では他の展覧会にはない特色を有していた。しかし同時に、そのような作品の設置に関して、現行の美術館の設備では音漏れ問題への対応の限界があることがわかった。今後の対応策を検討する必要があると考える。

「目撃者 安齋」展（海外交流展）

方 針

近年海外での日本現代美術・日本文化への関心が高まっていることから、同時代の優れた写真家であり、また、ポーランドにも戒厳令直前とクラクフ日本美術技術センターオープン時に訪れて、美術家との交流も深い安齋氏の写真作品を紹介することを通じ、両国の文化交流に寄与し、今後ここから更に交流を深めることを目的とした。

実 績

1. 開会期間 平成14年 9月 7日～平成14年10月 6日（26日間）
2. 会 場 ブンケル・シュトゥーキ現代美術ギャラリー（ポーランド）
3. 主 催 ブンケル・シュトゥーキ/国立国際美術館
協 賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団、ポーラ美術振興財団、ルフトハンザ、ホテルクラコピア
4. 出品点数 600件
5. 入館者数 1,700人
6. 入場料金 大人 6ズウォンティ、学生 3ズウォンティ
(1ズウォンティは約32円、2002年4月のレート)
7. 入場料収入 不明
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
当館が実施する国際交流の一貫として、2000年秋に開催した「安齋重男の眼 1970-1999」の出品作の一部をポーランドで紹介した国際交流展（写真展）である。
10. 講演会等
1回 40人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告（JR、地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出）、美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

Gazeta Krakowska	9月 5日	(AG)
Gazeta Krakowska + Echo Krakowa	9月 6日	
Gazeta Wyborcza	9月 6日	AB
Dziennik Polski	9月 7日	(AMS)
Gazeta Wyborcza	9月 7日	Anna Bugajska
Dziennik Polski	9月14日	
Wprost	9月22日	
Wpłost	9月22日	
Fluid	9月号	
Miesiac w Krakowie	9月号	
Aktywist Nr.39	9月号	
Gazeta Finansowa	9月28日～10月 4日号	
Warsztaty fotograficzne	10月号	
Wanda Szmilo Kulczycka		
13. アンケート調査（海外交流展のため、実施していない。）
14. 特記事項
今回の交流展では、受け入れ側のブンケル・シュトゥーキのスタッフも非常に協力的で、共に展覧会を作り上げて行くという姿勢が随所に感じられ、展示からオープニングまで仕事が非常に順調に進んだ。今後も国や地域を越えた交流、共同作業の場として国際交流展の開催は重要であり、継続する意義がある。なお、今回のポーランドでの国際交流展は、2000年に当館で開催した「近作展24 ミロスワフ・パウカ」（ポーランド、ワルシャワ出身、在住、1958生まれ）との交換展である。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

本展では、ポーランドの美術愛好家たちの現代美術への興味関心と共に、日本の同時代美術への関心の高さもあって、予想を上回る観客が訪れた。安斎重男という希有な写真家の仕事を紹介することを通じて、日本の現代美術の現状についてもある程度紹介する事ができ、実りの多い展覧会となった。また、安斎自身も積極的に当地の学芸員や批評家、作家達と交流を図り、今後の更なる共同作業へとつながることが予想される。

(2) 貸与・特別観覧の状況

中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

実 績

1. 貸与・特別観覧の件数

貸 与 31件(341点)

特別観覧 19件(35点)

2. 特記事項

優れた現代美術作品の相互活用を推進するため、他館からの要望に幅広く応えるよう努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

他館からの作品貸与依頼は引き続き多く、優れた現代美術作品の相互活用を推進すると同時に当館の所蔵品をできる限り広く観覧に供するために、他館からの要望には積極的に応えるよう努めた。同じく海外の美術館からの貸与依頼に対しても積極的な対応を行った。平成14年度は、当館で企画した「浜口陽三展」の巡回があり、当館所蔵の約270点の浜口作品が、国内各地の美術館にて観覧に供されることとなったため、貸与点数が多くなった。

*添付資料

貸与件数等の推移(定量的数値推移一覧表 p.8)

特別観覧件数の推移(定量的数値推移一覧表 p.9)

3. 調査研究

中期計画

(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。

- <1> 収蔵品に関する調査研究
- <2> 美術作品に関する調査研究
- <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
- <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
- <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等

(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。

(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

実績

1. 調査研究

(1) 収蔵品の調査研究

日本の現代美術に関する調査研究

海外の現代美術に関する調査研究

(2) 展覧会のための調査研究

イタリア抽象絵画に関する調査研究

日本及び韓国の女性現代美術作家に関する調査研究（韓国現代美術館との共同研究）

浜口陽三に関する調査研究（千葉市美術館などとの共同研究）

畠山直哉に関する調査研究

(3) 科学研究費補助金による調査研究

「ポストメディア論 - 電子時代における芸術作品 -」（萌芽的研究：継続）

「四大（地・水・火・風）の感性論」研究分担（基盤研究 代表 岩城見一）

(4) 保存・修理に関する調査研究

2. 客員研究員等の招聘実績（年度計画記載人数： 0人）

3. 調査研究費 予算額 13,051,000円 決算額 41,766,934円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

年度計画に基づく6項目について調査研究を行った。収蔵品の調査研究については、当館の広報誌である月報に4件発表し、展覧会のための研究については、展覧会図録及び月報に各6件発表したのを始め、単行書、論文、年譜、参考文献や学会、講演会においても積極的に研究成果の発表に努めた。

また、科学研究費補助金による調査研究も継続しており、全体として着実に成果を上げることができた。

4 . 教育普及

中期計画

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収藏品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収藏品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

方針

常設展示や企画展示などによる現代美術の紹介を補うため、多角的に美術に親しんでもらうための教育活動を行うとともに、新館移転を視野に入れた、新しい普及活動に向けての試みを開始した。

実績(総括表)

(1) - 1	資料の収集及び公開		
	収集件数	772件	
	公開場所		
	・利用者数	人	
	・貸出件数	件	
(1) - 2	広報活動の状況		
	刊行物による広報活動	9種	36冊
	ホームページによる広報活動		
	マスメディアの利用による広報活動		
(1) - 3	デジタル化の状況		
	今年度にデジタル化した美術作品の件数		
	・文字データ	728件(目標	件)
	・画像データ	484件(目標	件)
	・図書データ	2,872件(目標	件)
(2) - 1	児童生徒を対象とした事業		
	こどものためのワークショップ	5回	130人
	ビデオ上映	3回	57人
(2) - 2	講演会等の事業		
	講演会	7回	883人(海外交流展を含む。)
	ギャラリー・トーク	6回	337人
	上映会	2回	57人
	ビデオ上映	5回	164人
	シンポジウム	1回	80人
(3) - 1	研修の取組		
(3) - 2	大学等との連携		
	大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を行った。		
(3) - 3	インターンの活用状況		
	平成15年度からの導入に向け、規程を整備するとともに公募を行い、3名の登録を行った。		
(3) - 4	ボランティアの活用状況		
	平成15年度からの導入に向け、規程を整備するとともに公募を行い、41名の登録を行った。		
(4)	渉外活動		
	館の業務充実を図るため、展覧会への寄付金支援をはじめ、経済団体等からの支援方策について検討を行った。		
(5)	教育普及経費	予算額 26,213,000円	決算額 41,260,406円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

子供たちを対象としたワークショップやビデオ上映などは、当館のユニークな活動として定着した。また、講演会、ギャラリートークなども、現代美術への理解をうながす好機として、多くの参加者があった。

さらに、平成15年度から発足させるインターン、ボランティア制度に向けての準備作業を行い、今後の新しい教育普及活動の方向性を見据えた事業が、着実に進展したと考える。

*添付資料

教育普及一覧(定量的数値推移一覧表 p.11)

(1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況

中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

実 績

1. 収集
件数 772件
2. 公開（国立国際美術館では公開していない。）

自己点検評価

中期計画に基づき、基礎資料等の収集に努めたが、平成14年度については、特に現代作家研究の基礎となるカタログ、レゾネを中心に収書を行った。
なお、一般入館者への公開については、施設と人員の制約から実施していないが、研究者に対しては資料として公開している。

(1) - 2 広報活動の状況

中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

実績

1. 広報誌名

(1) 年報「平成13年度版」

発行年月日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 広報普及先の各機関及び関係者

(2) 概要

発行年月日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 広報普及先の各機関及び関係者 会場内配布, 修学旅行野計画のための学校等

(3) 図録

発行年月日 6回発行(発行回数6回)(年度計画記載発行回数 回)

料金 無償

配布先 広報普及先の各機関及び関係者

(4) リーフレット

発行年月日 2回発行(発行回数2回)(年度計画記載発行回数 回)

料金 無償

配布先 会場内及び広報普及先の各機関

(5) ジュニアガイドブック

発行年月日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 会場内及び近隣の教育関係機関

(6) 月報

発行年月日 12回発行(発行回数12回)(年度計画記載発行回数12回)

料金 無償(広報用)、100円(販売用)に訂正

配布先 広報普及先の各機関及び関係者

(7) 展覧会案内

発行年月日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 会場内及び広報普及先の各機関

(8) ポスター、チラシ(展覧会関係)

発行年月日 6回発行(発行回数6回)

料金 無償

配布先 広報普及先の各機関

(9) チラシ(子どものためのワークショップ用)

発行年月日 3回発行(発行回数3回)

料金 無償

配布先 広報普及先の各機関

(10) ポスター(小中学生観覧料無料化用)

発行年月日 1回発行(発行回数1回)

料金 無償

配布先 近畿地区の小・中学校、美術館、公共施設等

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

中期計画及び年度計画に基づき、文化、美術作品及び当館についての国民の理解促進を図るため、各種発行物の刊行により、幅広い年齢層に対する広報普及活動に努めた。また、ホームページの充実を図るなど、より積極的な広報活動にも努めた。特に、平成14年度は小中学生の観覧料金の無料化に伴い、版画家山本容子デザインによる当館独自のイメージポスターを作成し、近畿地区の小・中学校を中心に公共施設等へも配布し、美術館全体のイメージアップ及び広報活動に努めた。今後も、こうした活動を継続していきたいと考えている。

さらに、事業実績をまとめた年報については、年度当初の速やかな発刊に努めた結果、当館の前年度事業結果を周知させる資料として活用できたことは有意義であった。

(1) - 3 デジタル化の状況

中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

実績

1. 所蔵作品のデジタル化
今年度にデジタル化した美術作品の件数(目標 件)
文字データ 728件、画像データ 484件(目標 件)
平成14年度末収蔵作品数 4,528件(寄託作品27件を含む。)
平成14年度末デジタル化作品数 文字データ 4,923件、画像データ 1,789件
今後のデジタル化の対応 毎年 件をデジタル化予定
2. ホームページのアクセス件数(目標 件)(平成12年度アクセス件数 回)
215,033件(目標 件)(182,218件)
3. デジタル化した情報の公開
HP等による公開件数 230件

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

所蔵作品にかかる文字データの入力、平成14年度の新購入・寄贈作品を含め、全てのデータ入力が完了している。画像データについては、各作品について著作権をクリアしなければならないが、平成14年度はこの問題に重点的に取り組み、その結果として昨年度100件のところ、484件のデータ入力を行うという成果をあげることができた。

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業

中期計画

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

実績

1. 事業名 子どものためのワークショップ

開催期間

- ア. 平成14年 8月 3日(1日間)(開催場所:地階講堂)
- イ. 平成14年 8月10日(1日間)(開催場所:地階講堂他)
- ウ. 平成14年 8月11日(1日間)(開催場所:地階講堂他)
- エ. 平成15年 3月22日(1日間)(開催場所:地階講堂他)
- オ. 平成15年 3月29日(1日間)(開催場所:地階講堂)

参加者数(平成12年度実績 人)
130人(97人)

担当した研究員数 4人

事業内容 現役作家と子供たちが直接交流できるワークショップ

2. 事業名 子どものためのビデオ上映

開催期間

- ア. 平成14年7月27日(1日間)(開催場所:1階ロビー)
- イ. 平成14年9月14日(1日間)(開催場所:1階ロビー)
- ウ. 平成15年1月11日(1日間)(開催場所:1階ロビー)

参加者数(平成12年度実績 人)
57人(53人)

担当した研究員数 3人

事業内容 子供たちに現代美術に親しんでもらうためのビデオ上映会

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

ワークショップについては、アーティストのユニークなプログラムが子ども達に大変好評であった。また、事業実施のため、リーフレットを作成したりホームページを利用した広報など、広報活動にも力を入れた。

【見直し又は改善を要する点】

ワークショップ専用のアトリエスペースがなく、企画や使える資材にも制約があった。今後の運営について、対応人数も含め検討をしていきたい。

(2) - 2 講演会等の事業

中期計画

(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

実績

1. 講演会

7回(海外交流展1回を含む。)(年度計画記載回数:4回)

開催期間 7日間(延べ7回)

開催場所 講堂及び展示場(ポーランド:ブンケル・シュトゥーキ1回を含む。)

参加者数 883人(延べ人数)(平成13年度実績 5回:570人)

担当した研究員数 9人(延べ人数)

事業内容 展覧会に合わせた講演会及び現代美術に関する普及事業

アンケート結果(回答数 件)	・良い % (件)	・普通 % (件)	・悪い % (件)
158件	・良い 90%(142件)	・普通 10%(16件)	・悪い 0%(0件)
85件	・良い 94%(80件)	・普通 6%(5件)	・悪い 0%(0件)
100件	・良い 60%(60件)	・普通 40%(40件)	・悪い 0%(0件)
150件	・良い 87%(130件)	・普通 13%(20件)	・悪い 0%(0件)
60件	・良い 83%(50件)	・普通 17%(10件)	・悪い 0%(0件)
50件	・良い 92%(46件)	・普通 8%(4件)	・悪い 0%(0件)

2. ギャラリー・トーク

6回(年度計画記載回数:7回)

開催期間 6日間(延べ6回)

開催場所 講堂及び展示場

参加者数 327人(延べ人数)(平成13年度実績 7回:392人)

担当した研究員数 8人(延べ人数)

事業内容 展示作品の解説

アンケート結果(回答数 件)	・良い % (件)	・普通 % (件)	・悪い % (件)
62件	・良い 81%(50件)	・普通 19%(12件)	・悪い 0%(0件)
80件	・良い 90%(72件)	・普通 10%(8件)	・悪い 0%(0件)
40件	・良い 75%(30件)	・普通 25%(10件)	・悪い 0%(0件)
40件	・良い 50%(20件)	・普通 50%(20件)	・悪い 0%(0件)
60件	・良い 83%(50件)	・普通 17%(10件)	・悪い 0%(0件)
55件	・良い 93%(51件)	・普通 7%(4件)	・悪い 0%(0件)

3. 上映会

2回(年度計画記載回数:2回)

開催期間 2日間(延べ2回)

開催場所 講堂

参加者数 57人(延べ人数)(平成13年度実績 2回:420人)

担当した研究員数 1人

事業内容 現代美術作家の紹介

アンケート結果(回答数 件)	・良い % (件)	・普通 % (件)	・悪い % (件)
25件	・良い 80%(20件)	・普通 20%(5件)	・悪い 0%(0件)
32件	・良い 75%(24件)	・普通 25%(8件)	・悪い 0%(0件)

4. ヴィデオ上映

5回(年度計画記載回数:4回)

開催期間 5日間(延べ5回)

開催場所 1階ロビー

参加者数 164人(延べ人数)(平成13年度実績 5回:111人)

担当した研究員数 1人

事業内容 現代美術作家の紹介

アンケート結果(回答数 件) ・良い %(件) ・普通 %(件) ・悪い %(件)

34件 ・良い 82%(28件) ・普通 18%(6件) ・悪い 0%(0件)

13件 ・良い 62%(8件) ・普通 38%(5件) ・悪い 0%(0件)

28件 ・良い 71%(20件) ・普通 29%(8件) ・悪い 0%(0件)

33件 ・良い 88%(29件) ・普通 12%(4件) ・悪い 0%(0件)

56件 ・良い 93%(52件) ・普通 7%(4件) ・悪い 0%(0件)

5. シンポジウム

1回

開催期間 1日間

開催場所 講堂

参加者数 80人(平成13年度実績 1回:80人)

担当した研究員数 1人

事業内容 シンポジウム

アンケート結果(回答数 件) ・良い %(件) ・普通 %(件) ・悪い %(件)

80件 ・良い 75%(60件) ・普通 19%(15件) ・悪い 6%(5件)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

展覧会にあわせた教育普及事業として、講演会や対談、シンポジウムなどを積極的に実施した。現代美術を扱う展覧会では、作家自身による講演会や対談、シンポジウムなどは、出品作家の生の声に触れることができる貴重な機会となった。また、展覧会ごとにギャラリー・トークを実施し、担当学芸員が展示場内で作品を見ながら分かりやすく解説を行うとともに、来館者が感じた疑問や感想などを直接フィードバックしてもらい、恰好の機会ともなっている。今後も、現代美術に関する教育普及事業として、充実した内容を検討しながら継続していきたいと考えている。

(3) - 1 大学等との連携

実績

1. 博物館実習生

受入期間 平成14年 7月29日～平成14年 8月 4日(7日間)

開催場所 国立国際美術館

参加者数(平成12年度実績 人)

20名(21名)

担当した研究員数 7人

決算額 円

事業内容

大学生の学芸員資格取得のための博物館実習

特記事項

美術館の事業に合わせたカリキュラムを組むなど、できるだけ日常業務を取り込んだ形での実習を実施した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

受入れ期間中に展覧会の展示作業の見学、一般来館者の前でのギャラリートーク実習、ワークショップの実習など、幅広い実体験の場を提供することができた。

【見直し又は改善を要する点】

現施設では実習スペースが狭く、限られた人数にしか対応できない面もあった。今後の運営について、対応人数も含め検討をしていきたい。

(4) 渉外活動

中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

実 績

下記のとおり、展覧会助成として2件の寄附金を受け入れた。

1. 「いま、話そう 日韓現代美術展」(特別展)
国際交流基金ソウル日本文化センターから、214,200円を受け入れ。
2. 「目撃者 安斎」展(海外交流展)
ポーラ美術振興財団から、2,000,000円を受け入れ。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

館の業務充実を図るため、展覧会に対する助成団体への申請を積極的に行い、平成14年度は2件の助成支援をいただいた。館の事業をより充実したものとするために、有効な方策であると考えられるので、今後も積極的に取り組んでいきたい。

【見直し又は改善を要する点】

館の支援団体として、友の会の設立や経済団体との関わりについて、新館移転に向け検討を進めていきたい。

5 . 新たな美術館の運営に向けた取り組み

中期計画

国立国際美術館新館については、平成16年の移転に向けて、体制整備、展示等の実施準備を進め、開館後は円滑な事業実施に努める。具体的な管理運営のあり方等については開館までに検討を進める。

実 績

平成16年の新館移転に向け、館長のリーダーシップのもと学芸課、庶務課メンバーによる新館部会、広報部会、情報部会を設置し、新館における管理運営の在り方等について検討を行っている。

各部会では、移転タイムスケジュール表に基づき、移転に向けた課題について検討を行い、毎月の定例会議において進捗状況を報告するなど、新館移転後の円滑な事情実施に向け準備を進めている。

自己点検評価

国土交通省に対し、新館建築等の支出委任をしていることから、工事の進捗状況等の連絡調整に苦労している。

6. その他の入館者サービス

中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

実績

1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1
- | | |
|-------------|-----------------|
| 障害者トイレ | 1 個所 (1 階 1 個所) |
| 障害者エレベータ | 2 基 |
| 段差解消 (スロープ) | 1 個所 (正面玄関) |
| 貸出用車椅子 | 5 台 (1 階) |
2. 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4
展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するとともに、館内にビデオテークを設置し、情報提供を行った。
3. 夜間開館等の実施状況 (1)-3
- (1) 夜間開館実施状況 (実施していない。)
- ア. 開催日数 0 日間
- イ. 入館者数 人 (総入場者数 人, 夜間開館入場率 %)
- ウ. 実施日
- (2) 小中学生の入場料の低廉化
平成14年度については、常設展及び特別展・共催展ともに小・中学生の観覧料を無料とした。
- (3) (2) 以外の入場料金の取り組み方
- ア. 学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図るよう検討を行った。
- イ. ワールドカップ開催期間中、外国人 (パスポート呈示者) の観覧料を無料とした。
- (4) その他の入館者サービス
高齢者に配慮して、拡大鏡 (ルーペ) を受付に配置し、希望者に貸出しを行った。
4. アンケート調査(1)-3
- | | |
|------|-------------------------------|
| 調査期間 | 平成14年 4月25日～平成14年 4月28日 (4日間) |
| | 平成14年 6月20日～平成14年 6月23日 (4日間) |
| | 平成14年10月10日～平成14年10月13日 (4日間) |
| | 平成14年11月 8日～平成14年11月11日 (4日間) |
| | 平成15年 1月23日～平成15年 1月26日 (4日間) |
- 調査方法 入館時にアンケート用紙を配布し、任意で提出を依頼した。
- | | |
|----------|------|
| アンケート回収数 | 439件 |
| | 486件 |
| | 406件 |
| | 570件 |
| | 303件 |
- アンケート結果
- | | | | | | |
|-----|------------|-----|------------|-----|----------|
| ・良い | 58% (253件) | ・普通 | 34% (148件) | ・悪い | 5% (20件) |
| ・良い | 71% (345件) | ・普通 | 24% (119件) | ・悪い | 1% (4件) |

・良い 37% (152件) ・普通 37% (150件) ・悪い 1% (5件)
・良い 44% (249件) ・普通 35% (200件) ・悪い 1% (8件)
・良い 41% (125件) ・普通 40% (121件) ・悪い 2% (5件)

5. 一般入館者等の要望の反映 (2)

アンケート結果の分析を行い、可能なものから改善に努めた。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3)

現代美術をより親しく感じてもらえるよう、販売グッズの内容を検討し、充実に努めた。

7. 特記事項

アンケート結果の分析から入館者のニーズを把握し、可能なものから改善に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

当館では、展示空間の在り方が展示作品に大きく反映する現代美術を扱うため、展示場内に解説パネル類を掲示することができない。これは、作品自体を十全な状態で鑑賞してもらいたいという配慮からであるが、同時に来館者からは、解説パネルを望む声や作品キャプションを大きくして欲しいとの声も聞かれる。そのような声に応えるため、各展覧会ごとに展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するなど、鑑賞環境の充実に努めた。

また、ゴールデンウィーク中の休館日を臨時開館するなど、公園内にある施設という特殊事情に対応した入館者サービスにも努めた。

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
洋画	ウテ・リンドナー	露出時間	1996	フェルト、露光	300.0×300.0	
洋画	狗巻賢二	作品92-12	1992	油彩、キャンバス	54.0×39.0	
洋画	狗巻賢二	作品92-17	1992	油彩、キャンバス	53.5×38.5	
洋画	狗巻賢二	作品92-18	1992	油彩、キャンバス	53.5×38.5	
洋画	狗巻賢二	作品92-19	1992	油彩、キャンバス	53.5×38.5	
洋画	狗巻賢二	作品92-28	1992	油彩、キャンバス	51.5×37.0	
洋画	宇佐美圭司	アクション・フィールド	1964	油彩、キャンバス	185.0×270.0	
洋画	瑛九	動物たち	1956-57	油彩、キャンバス	91.0×72.5	
洋画	瑛九	泉	1959	油彩、キャンバス	97.0×130.0	
洋画	諏訪直樹	PT-9004	1990	アクリル、綿布	160.0×360.0	
洋画	松谷武判	繁殖 65-24	1965	ビニール接着剤によるレリーフ、油性絵具、水性絵具、合板の上にキャンバス	183.3×137.4	
洋画	松谷武判	WAVE 84-1	1984	ビニール接着剤によるレリーフ、鉛筆、キャンバスに和紙	200.0×145.0	
洋画	村上友晴	無題	1993-94	油彩、キャンバス	91.0×72.5	
洋画	ダニエル・ビュレン	定まらないフォルムの絵画	1965	アクリル、白と濃紺の交互8.7cmの縦縞模様には織った布	214.8×184.8	
洋画	サニー・キム	ヤッホー、少女たち	2002	アクリル、カンバス	210.0×332.0	
洋画	岩城直美	House	2001	油彩、カンバス	130.3×194.0	
洋画	坂上チユキ	ニケ(古色蒼然)	1979	油彩、カンバス	100.0×100.0	
洋画	福岡道雄	何もすることがない	1999	木、繊維強化プラスチック	183.5×230.5	
洋画	松尾藤代	TOTAL LOSS ROOM	1999	油彩、綿布	185.5×240.2	
水彩・素描	クリスト	Packed Coast, Project for Sidney, Australia	1969	コラージュ	71.0×56.0	
水彩・素描	孫雅由	自立する色 WS90-38	1990	透明水彩、鉛筆、コラージュ、ハーネミュール紙、BFK紙	76.5×56.5	
水彩・素描	文承根	作品	1981	水彩、紙	54.7×74.0	
水彩・素描	文承根	作品	1981	水彩、紙	56.0×74.5	
水彩・素描	文承根	作品	1980	水彩、紙	56.3×74.3	
水彩・素描	文承根	作品	1978	水彩、紙	52.5×76.8	
水彩・素描	文承根	作品	1978	水彩、紙	52.5×77.0	
水彩・素描	松井智恵	DRAW-1'98	1998	水彩、水彩紙	39.8×26.5	
水彩・素描	松井智恵	DRAW-2'98	1998	水彩、水彩紙	49.6×32.0	
水彩・素描	松井智恵	DRAW-3'98	1998	水彩、水彩紙	58.7×78.5	
水彩・素描	松井智恵	DRAW-4'98	1998	水彩、水彩紙	56.5×75.6	
水彩・素描	O JUN	花・TV・コップ	1998	クレヨン、鉛筆、グワッシュ、紙	70.0×50.0	42点組
水彩・素描	孫雅由	形態の消去又は白の間合い P82-08	1982	鉛筆、消しゴム、ペランアルシュ紙	91.0×64.0	
水彩・素描	孫雅由	記憶の痕跡 P84-32	1984	フロッタージュ、鉛筆、紙、綿布	145.5×112.0	
水彩・素描	孫雅由	記憶の痕跡 P84-34	1984	フロッタージュ、鉛筆、紙、綿布	145.5×112.0	
水彩・素描	O JUN	拳兵図	1998	鉛筆、紙、ガラス、鉄	170.0×119.0	
彫刻	クリスト	梱包された缶	1958	布、ラッカー、ロープ、缶	25.0×11.5	
彫刻	ダン・フレヴィン	Untitled (fondly to Margo)	1986	黄色蛍光灯、ピンク色蛍光灯	244.0×41.0×20.5	
彫刻	李禹煥	刻み	1970	木	130.0×67.5	
彫刻	トニー・アウスラー	Bend	1998	プロジェクター、DVDディスク、陶、プレキシグラス、木	135.0×28.0×28.0	
彫刻	石原友明	I.S.M.(スカート)	1988	発泡スチロール、牛革、砂	220.0×140.0×140.0	
彫刻	福嶋敬恭	Blue Dots	1966/1989	アルミニウム、ラッカー	133.0×330.0×111.0	
彫刻	シェリー・レヴィーン	Black Newborn	1994	ガラス	12.7×20.3	
彫刻	内藤 礼	Pillow for the dead	1997	シルクオーガンジー、糸	6.3×4.8×2.7	
彫刻	内藤 礼	Pillow for the dead	2002	シルクオーガンジー、糸	6.4×4.6×3.0	
版画	マルセル・デュシャン	ホワイト・ボックス	1966	79枚のメモのコピー、メモを書き起こした冊子、プレキシグラスの箱	33.3×29.0	
版画	ロイ・リキテンシュタイン	Sweet Dreams Baby!	1965	シルクスクリーン、紙	90.3×65.0	
版画	ミケランジェロ・ピストレット	Untitled	1980年代	シルクスクリーン、ステンレス	50.0×40.0	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
版画	孫雅由	形態の消去又は距離の位置 C81-10 [R16]・ED20	1983	ドライポイント、板ぼかし、雁皮張り、ペランアルシュ紙、雁皮紙	92.0×54.0	
版画	孫雅由	間合いの配列 C89-03	1989	アクアチント、BFK紙	66.0×50.0	
版画	アントニ・タビエス、瀧口修造	詩画集「物質のまなざし」	1975	リトグラフ、紙、詩画集	リトグラフ:各56.0×76.0 詩画集:43.0×63.0	
版画	饅頭	空になびく花	1956	リトグラフ、紙	77.0×54.0	
版画	池田満寿夫他	詩画集「あんま」	1968	エッチング、他、紙	38.2×56.2	
版画	O JUN	秋水	1996	リトグラフ、紙	各76.0×65.0	
版画	浜口陽三	港	1951	メゾチント、紙	27.0×36.2	
版画	浜田知明	幼なきキリスト	1951	エッチング、紙	18.9×17.7	
版画	フランク・ステラ	Then came water and quenched the fire.Plate6 from Illustrations after El Lissitzky's Had Gadya	1982-84	リトグラフ、紙、コラージュ	136.8×130.7	
版画	石井茂雄	不詳(虐殺の木)	1958頃	エッチング、アクアチント、紙	36.0×44.7	
版画	石井茂雄	不詳(しばられた男たち)	1958頃	エッチング、アクアチント、紙	18.1×23.5	
版画	石井茂雄	タレントたちA	1960	エッチング、アクアチント、紙	23.5×36.0	
写真	ソフィ・カル	ダブル・ゲーム - 服従 / BとCとWの文字に従った日々	1998	Cプリント	各額サイズ67.0×67.0	写真とテキストのセット4点
写真	マン・レイ	アンドレ・ドラゴン/ソラリゼーション	1928	ゼラチンシルバープリント	15.2×12.3	
写真	マン・レイ	ひとで	1928	ゼラチンシルバープリント	15.5×20.0	
写真	マン・レイ	マニーナ・ハリウッド	1940	ゼラチンシルバープリント	24.4×19.0	
写真	マン・レイ	レイヨグラフ(オリジナル)	1959	ゼラチンシルバープリント	29.9×23.8	
写真	杉本博司	Baltic Sea, Rugen	1996	ゼラチンシルバープリント	65.5×83.5	
写真	杉本博司	Baltic Sea, Rugen	1996	ゼラチンシルバープリント	65.5×83.5	
写真	杉本博司	Baltic Sea, Rugen	1996	ゼラチンシルバープリント	65.5×83.5	
写真	瑛九	芝居	1950	ゼラチンシルバープリント	44.6×53.3	
写真	瑛九	顔2	1950	ゼラチンシルバープリント	50.6×40.6	
写真	榎倉康二	予兆のためのコレクション No.76-Skin	1975	ゼラチンシルバープリント、調色	44.5×156.0×6.0	
写真	榎倉康二	予兆 - 海・肉体(P.W.-No.40)	1972	ゼラチンシルバープリント	16.1×24.5	
写真	榎倉康二	予兆 - 鉛の塊・空間へ	1972	ゼラチンシルバープリント	19.0×24.0	
写真	榎倉康二	P.W.-No.48	1972	ゼラチンシルバープリント	18.1×24.2	
写真	榎倉康二	予兆 - 床・手(P.W.-No.51)	1974	ゼラチンシルバープリント	20.6×19.0	
写真	榎倉康二	予兆 - ピン・水(P.W.-No.52)	1974	ゼラチンシルバープリント	16.4×24.5	
写真	榎倉康二	P.W.-No.55	1974	ゼラチンシルバープリント	19.1×19.0	
写真	榎倉康二	STORY & MEMORY(P.W.-No.112)	1993	ゼラチンシルバープリント	15.7×24.0	
写真	榎倉康二	STORY & MEMORY(P.W.-No.122)	1993	ゼラチンシルバープリント	15.7×24.0	
写真	榎倉康二	STORY & MEMORY(P.W.-No.118)	1994	ゼラチンシルバープリント	15.3×23.5	
写真	榎倉康二	STORY & MEMORY(P.W.-No.120)	1994	ゼラチンシルバープリント	18.4×23.5	
写真	榎倉康二	P.W.-No.135	1994	ゼラチンシルバープリント	15.4×24.0	
写真	木村友紀	タバコ 2、山の大小	1999	Cプリント	120.0×354.0	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1965	シルクスクリーン	103.5×73.4	
デザイン	横尾忠則	A LA MAISON DE M. CIVECAWA	1965	シルクスクリーン	103.5×73.3	
デザイン	横尾忠則	都市とデザイン	1965	シルクスクリーン	104.2×73.8	
デザイン	横尾忠則	眠りと犯しと落下と	1965	シルクスクリーン	105.4×75.0	
デザイン	横尾忠則	終わりの美学	1966	シルクスクリーン	102.4×76.0	
デザイン	横尾忠則	腰巻お仙	1966	シルクスクリーン	103.1×72.3	
デザイン	横尾忠則	切断された小指に捧げるバラード	1966	シルクスクリーン	102.2×72.3	
デザイン	横尾忠則	天井機敷 定期会員募集	1967	シルクスクリーン	104.0×73.7	
デザイン	横尾忠則	ジョン・シルバー	1967	シルクスクリーン	102.7×74.6	
デザイン	横尾忠則	北亜米利加人物ヘンリー・ミラー像	1968	シルクスクリーン	103.6×73.7	
デザイン	横尾忠則	続 ジョン・シルバー	1968	シルクスクリーン	102.5×74.0	
デザイン	横尾忠則	由比正雪	1968	シルクスクリーン	100.4×71.5	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
デザイン	横尾忠則	大山デブコの犯罪	1968	シルクスクリーン	107.0×74.7	
デザイン	横尾忠則	新宿泥棒日記	1968	シルクスクリーン	99.8×71.5	
デザイン	横尾忠則	毛布のマリー	1968	シルクスクリーン	105.0×75.3	
デザイン	横尾忠則	能、薨の会	1969	シルクスクリーン	102.9×72.3	
デザイン	横尾忠則	椿説弓張月	1969	シルクスクリーン	103.5×73.7	
デザイン	横尾忠則	人力飛行ソロモン	1970	シルクスクリーン	101.4×71.4	
デザイン	横尾忠則	土方巽燻籠大踏鑑	1970	シルクスクリーン	109.2×79.2	
デザイン	横尾忠則	あぼんだれ一代	1970	シルクスクリーン	104.0×72.6	
デザイン	横尾忠則	文楽椿説弓張月	1971	シルクスクリーン	102.0×72.2	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO'82	1982	シルクスクリーン	180.0×113.5	
デザイン	横尾忠則	新宿泥棒日記	1968	オフセット	71.7×51.4	
デザイン	横尾忠則	続・これがアメリカだ	1968	オフセット	73.0×51.5	
デザイン	横尾忠則	第6回東京国際版画ビエンナーレ	1968	オフセット	104.4×74.0	
デザイン	横尾忠則	一米七〇種のブルース	1968	オフセット	59.7×28.0	
デザイン	横尾忠則	新網走番外地	1969	オフセット	73.0×51.7	
デザイン	横尾忠則	マリリンモンロー性の実録	1969	オフセット	85.3×59.7	
デザイン	横尾忠則	SOL BLACKEE	1969	オフセット	72.3×51.3	
デザイン	横尾忠則	絵金属	1970	オフセット	103.6×73.3	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則全集展	1970	オフセット	102.9×73.0	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1970	オフセット	102.9×73.0	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1970	オフセット	102.4×72.3	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1970	オフセット	102.6×73.3	
デザイン	横尾忠則	WONDERLAND	1971	オフセット	74.3×104.3	
デザイン	横尾忠則	ART NOW	1971	オフセット	72.7×51.6	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則全集	1971	オフセット	59.4×41.1	
デザイン	横尾忠則	YUMEYA	1971	オフセット	51.8×37.3	
デザイン	横尾忠則	STONE 音響標定	1974	シルクスクリーン	103.4×73.2	
デザイン	横尾忠則	谷内六郎さんの展覧会	1981	シルクスクリーン	103.0×73.2	
デザイン	横尾忠則	JASRAC	1988	シルクスクリーン	103.0×72.9	
デザイン	横尾忠則	戦後文化の軌跡1945-1995	1995	シルクスクリーン	103.0×72.6	
デザイン	横尾忠則	LACHAPELLE LAND	1996	シルクスクリーン	97.3×72.5	
デザイン	横尾忠則	LACHAPELLE LAND	1996	シルクスクリーン	96.0×74.3	
デザイン	横尾忠則	SHIRO KURAMATA	1996	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	Once Upon A Time	1996	シルクスクリーン	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	氷川神社	1996	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	First Planning	1996	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	Wedding	1996	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	日の本の猫	1996	シルクスクリーン	103.4×72.9	
デザイン	横尾忠則	資生堂オイデルミン	1997	シルクスクリーン	103.3×72.9	
デザイン	横尾忠則	おけら会	1997	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	寂庵	1997	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	Fuji TARZAN	1997	シルクスクリーン	103.2×72.9	
デザイン	横尾忠則	MILK	1997	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	CIGAR CLUB	1997	シルクスクリーン	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	川島織物	1997	シルクスクリーン	103.4×72.8	
デザイン	横尾忠則	福岡ダイエーホークス	1997	シルクスクリーン	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	TAKEO	1997	シルクスクリーン	103.1×72.8	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
デザイン	横尾忠則	OFF DESIGN	1997	シルクスクリーン	103.2×72.9	
デザイン	横尾忠則	OKABE SILKSCREEN STUDIO	1997	シルクスクリーン	103.0×72.7	
デザイン	横尾忠則	KONOIKE TRANSPORTATION Co.,Ltd.	1997	シルクスクリーン	103.1×72.7	
デザイン	横尾忠則	NFC	1997	シルクスクリーン	103.2×72.9	
デザイン	横尾忠則	BEAMS	1997	シルクスクリーン	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	巖流島	1997	シルクスクリーン	103.0×72.9	
デザイン	横尾忠則	美夜古	1997	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	すみだトリフォニーホール	1997	シルクスクリーン	103.2×73.1	
デザイン	横尾忠則	CHROME HEARTS	1997	シルクスクリーン	103.0×72.7	
デザイン	横尾忠則	高崎芸術短期大学	1997	シルクスクリーン	103.2×72.9	
デザイン	横尾忠則	Primera Camino WAGON	1997	シルクスクリーン	103.4×72.9	
デザイン	横尾忠則	素箋烏尊	1998	シルクスクリーン	103.2×72.5	
デザイン	横尾忠則	第18回ジャパンカップ	1998	シルクスクリーン	103.4×72.8	
デザイン	横尾忠則	櫻木神社	1998	シルクスクリーン	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	CAT STEAVENS	1972	オフセット	103.4×73.4	
デザイン	横尾忠則	EMASON LAKE & PALMER	1972	オフセット	105.5×75.0	
デザイン	横尾忠則	GREETING	1972	オフセット	102.9×73.0	
デザイン	横尾忠則	江戸のデザイン	1972	オフセット	72.2×49.8	
デザイン	横尾忠則	THE BEATLES	1972	オフセット	103.2×73.9	
デザイン	横尾忠則	PLAY MAP	1972	オフセット	83.1×59.3	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則近作展	1973	オフセット	103.0×68.3	
デザイン	横尾忠則	禅 瞑想	1973	オフセット	82.5×55.1	
デザイン	横尾忠則	君も必ず地獄に行く	1973	オフセット	84.1×59.6	
デザイン	横尾忠則	Jesus Christ	1973	オフセット	102.4×72.8	
デザイン	横尾忠則	タンカ展	1973	オフセット	94.0×70.8	
デザイン	横尾忠則	FLUSH CONCERT	1973	オフセット	103.0×73.2	
デザイン	横尾忠則	GRAPHIC 4	1974	オフセット	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1974	オフセット	95.0×63.8	
デザイン	横尾忠則	GREETING(赤)	1974	オフセット	103.5×73.8	
デザイン	横尾忠則	POSTER OF POSTER	1974	オフセット	104.6×74.6	
デザイン	横尾忠則	GORO	1974	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	HAIZUKA	1974	オフセット	103.2×73.2	
デザイン	横尾忠則	グラフィックイメージ'74	1974	オフセット	72.5×103.0	
デザイン	横尾忠則	グラフィック4	1974	オフセット	103.4×73.3	
デザイン	横尾忠則	ONE STEP FESTIVAL	1974	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	SANTANA LOTUS	1974	オフセット	102.9×73.0	
デザイン	横尾忠則	KENJI	1974	オフセット	102.9×72.8	
デザイン	横尾忠則	TAKEDA FOR MEN	1974	オフセット	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	片岡秀太郎	1974	オフセット	103.2×71.7	
デザイン	横尾忠則	超能力探検	1974	オフセット	72.8×51.7	
デザイン	横尾忠則	T. YOKOO	1974	オフセット	103.0×72.9	
デザイン	横尾忠則	初国知所之天皇リフレイン	1974	オフセット	103.4×72.9	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則新作展	1974	オフセット	73.1×51.9	
デザイン	横尾忠則	第11回現代日本美術展	1975	オフセット	103.2×68.4	
デザイン	横尾忠則	茅ヶ崎心中	1975	オフセット	83.2×58.8	
デザイン	横尾忠則	BLOW UP HIDEKI	1975	オフセット	102.9×72.9	
デザイン	横尾忠則	美麗秀逸	1975	オフセット	99.8×64.3	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
デザイン	横尾忠則	SCIENCE FICTIONS MOVIE	1975	オフセット	56.4×41.6	
デザイン	横尾忠則	屋島	1975	オフセット	103.5×72.9	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則個展	1975	オフセット	102.7×72.4	
デザイン	横尾忠則	国枝史郎伝奇文庫	1976	オフセット	59.4×42.4	
デザイン	横尾忠則	ミラレバ	1976	オフセット	72.8×52.1	
デザイン	横尾忠則	スワノセ	1976	オフセット	73.0×51.5	
デザイン	横尾忠則	ダルチモン	1976	オフセット	103.0×73.5	
デザイン	横尾忠則	ダルチモン	1976	オフセット	103.3×73.0	
デザイン	横尾忠則	インド・ネパール精神世界への旅	1976	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	EARTH, WIND AND FIRE	1976	オフセット	102.8×72.7	
デザイン	横尾忠則	西郷隆盛百年展	1976	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	TANGERINE DREAM	1976	オフセット	84.0×59.3	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE	1976	オフセット	103.0×72.8	
デザイン	横尾忠則	AMNESTY INTERNATIONAL	1976	オフセット	82.7×61.3	
デザイン	横尾忠則	SAHRA ART	1976	オフセット	103.2×73.3	
デザイン	横尾忠則	麻布大観音	1977	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	LASERIUM	1977	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	カルパタル大祭	1977	オフセット	73.6×52.5	
デザイン	横尾忠則	HAIZUKA PRINTING	1977	オフセット	103.3×73.4	
デザイン	横尾忠則	佛母寺	1977	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	南へ遠く	1977	オフセット	72.5×51.7	
デザイン	横尾忠則	ダルチモン	1977	オフセット	103.2×73.7	
デザイン	横尾忠則	明治大正図誌	1978	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	コーリュウの方船	1978	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	MS - 8	1978	オフセット	103.0×73.4	
デザイン	横尾忠則	COCHIN MOON	1978	オフセット	103.1×72.9	
デザイン	横尾忠則	ANTIQUÉ MARKET OPEN!	1978	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	チベット密教壁画	1978	オフセット	103.2×72.8	
デザイン	横尾忠則	きもの元年	1978	オフセット	103.1×72.9	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE	1978	オフセット	103.0×73.1	
デザイン	横尾忠則	GREETING HAIZUKA	1978	オフセット	103.6×73.0	
デザイン	横尾忠則	KEN TAKAKURA	1978	オフセット	70.0×50.5	
デザイン	横尾忠則	シマヤだしの素	1978	オフセット	72.9×51.9	
デザイン	横尾忠則	二百三高地	1978	オフセット	101.6×72.1	
デザイン	横尾忠則	THE PLANETS	1979	オフセット	72.8×51.6	
デザイン	横尾忠則	アクエリアス時代の子	1979	オフセット	73.5×52.4	
デザイン	横尾忠則	GOOD MORNING	1979	オフセット	103.3×72.9	
デザイン	横尾忠則	雲井時鳥国	1979	オフセット	103.4×73.1	
デザイン	横尾忠則	マヌエル・アルムダンス公演	1979	オフセット	73.0×51.8	
デザイン	横尾忠則	シマヤだしの素	1979	オフセット	73.2×51.7	
デザイン	横尾忠則	KANOX	1979	オフセット	103.2×72.9	
デザイン	横尾忠則	源氏物語	1979	オフセット	103.4×73.0	
デザイン	横尾忠則	ALDEBARAN Restaurant	1979	オフセット	103.4×72.9	
デザイン	横尾忠則	30 COMPANIES POSTER	1979	オフセット	102.9×73.2	
デザイン	横尾忠則	P79 ONE WORLD POETRY, AMSTERDAM	1979	オフセット	95.3×64.0	
デザイン	横尾忠則	熱帯樹	1980	オフセット	73.0×51.6	
デザイン	横尾忠則	BLUE IMPULSE	1980	オフセット	103.1×72.5	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
デザイン	横尾忠則	幸福号出帆	1980	オフセット	103.3×73.0	
デザイン	横尾忠則	MILANO:5	1980	オフセット	103.4×72.9	
デザイン	横尾忠則	MILANO IN JAPAN	1980	オフセット	103.3×72.8	
デザイン	横尾忠則	FREEDOM'80	1980	オフセット	73.0×51.8	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則展覧会	1980	オフセット	103.1×72.7	
デザイン	横尾忠則	MANUEL ALUM/MADE IN JAPAN	1980	オフセット	70.0×49.8	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則ドローイングと木版画展	1981	オフセット	103.2×73.1	
デザイン	横尾忠則	聖典世界を行く	1981	オフセット	103.5×73.2	
デザイン	横尾忠則	LOVE JOHN LENNON	1981	オフセット	103.5×73.3	
デザイン	横尾忠則	KAORI	1982	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	生きている小平次	1982	オフセット	72.7×51.5	
デザイン	横尾忠則	世界のポスター10人展	1982	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	SHISEIDO	1982	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	HOUSE INDIAN CURRY	1982	オフセット	103.1×73.0	
デザイン	横尾忠則	緑十字軍	1982	オフセット	103.0×74.0	
デザイン	横尾忠則	緑十字軍	1982	オフセット	103.0×74.2	
デザイン	横尾忠則	緑十字軍	1982	オフセット	102.9×74.2	
デザイン	横尾忠則	緑十字軍	1982	オフセット	103.2×74.0	
デザイン	横尾忠則	緑十字軍	1982	オフセット	103.1×74.1	
デザイン	横尾忠則	BOW WOW WOW	1982	オフセット	103.0×73.3	
デザイン	横尾忠則	JOIN US! JAGDA	1982	オフセット	104.8×74.6	
デザイン	横尾忠則	MULTI COLORED WOMAN	1982	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	KIDNAPING BLUES	1982	オフセット	103.2×73.3	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則版画・ドローイング展	1982	オフセット	102.8×73.0	
デザイン	横尾忠則	JAPAN Exhibition	1983	オフセット	100.1×62.0	
デザイン	横尾忠則	CHARIVARI	1983	オフセット	99.3×72.3	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1983	オフセット	88.9×59.3	
デザイン	横尾忠則	KUKAI	1984	オフセット	103.3×73.0	
デザイン	横尾忠則	ブラディープ物語	1984	オフセット	88.2×62.3	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則の世界展	1984	オフセット	72.7×51.8	
デザイン	横尾忠則	UNIVERSIADE KOBE'85	1984	オフセット	102.9×73.0	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則と西脇展	1984	オフセット	75.0×52.7	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE BODY WORKS	1985	オフセット	76.5×51.7	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE BODY WORKS	1985	オフセット	76.7×51.7	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE BODY WORKS	1985	オフセット	76.5×51.7	
デザイン	横尾忠則	ISSEY MIYAKE BODY WORKS	1985	オフセット	76.4×51.8	
デザイン	横尾忠則	日本へそ公園駅開業	1985	オフセット	102.6×73.0	
デザイン	横尾忠則	TADANORI YOKOO EXHIBITION" CERAMIC AND VIDEO ART WITH LISA LYON"	1985	オフセット	103.2×73.0	
デザイン	横尾忠則	100 PLAKATE 1965 - 1983	1985	オフセット	103.4×73.0	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則と神戸展	1985	オフセット	73.5×52.0	
デザイン	横尾忠則	85 EXHIBITION OF JAPANESE ILLUSTRATION, TADANORI YOKOO'S	1985	オフセット	103.0×73.0	
デザイン	横尾忠則	嵯峨御流いけばな	1985	オフセット	103.1×72.8	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則 三宅一生をデザインする	1985	オフセット	72.2×51.6	
デザイン	横尾忠則	MESSAGE FROM TOKYO	1986	オフセット	84.3×59.2	
デザイン	横尾忠則	横尾忠則 音楽をデザインする	1986	オフセット	73.1×52.0	
デザイン	横尾忠則	TOKYO: FORM AND SPIRIT	1986	オフセット	91.3×73.6	
デザイン	横尾忠則	魔笛	1987	オフセット	102.9×72.8	

美術作品の購入一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	備考
デザイン	横尾忠則	横尾忠則展	1987	オフセット	103.1×73.2	
デザイン	横尾忠則	病める舞姫	1987	オフセット	103.1×72.8	
デザイン	横尾忠則	PLEINS FEUX SUR LE JAPON PARIS 1987	1987	オフセット	103.1×72.8	

美術作品の寄贈一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	備考
洋画	孫雅由	現れるものしずみゆくもの OC79-05 [R4]	1976-78	油彩、キャンバス	53.0×53.0	
洋画	孫雅由	色の位置OC91-15	1991	油彩、綿布	194.0×533.0	
洋画	孫雅由	マリンプルー イン ブルー又は空間の間合い AC99-20	1999	木炭、顔料、アクリルメディウム、綿布	194.0×391.5	
水彩・素描	藤田嗣治	婦人像	1930	鉛筆、水彩、紙	52.5×35.3	
水彩・素描	文承根	作品	1980	水彩、紙	56.5×74.0	
水彩・素描	文承根	作品	1980	水彩、紙	56.5×74.3	
水彩・素描	文承根	作品	1980	水彩、紙	48.3×68.0	
水彩・素描	文承根	作品	1980	水彩、紙	48.3×68.2	
水彩・素描	文承根	作品	1981	水彩、紙	66.3×91.0	
写真	フランソワ・ルネ・ロラン	ブルトンと瀧口修造	1958/93	ゼラチンシルバープリント	24.7×16.8	
写真	マン・レイ	マルセル・デュシャン、星形の剃髪	1919/75	ゼラチンシルバープリント	37.4×27.4	
写真	マン・レイ	埃の培養	1920/77	ゼラチンシルバープリント	21.1×37.5	
写真	マン・レイ	「回転ガラス板」のマルセル・デュシャン	1920/75	ゼラチンシルバープリント	35.5×25.8	
写真	マン・レイ	デュシャンのアトリエにて、「回転ガラス板」	1920/75	ゼラチンシルバープリント	28.7×22.5	
写真	マン・レイ	デュシャンのアトリエにて、「回転半球」	1920頃/80頃	チバクロームプリント	30.2×22.8	
写真	マン・レイ	マルセル・デュシャン、ローズ・セラヴィ	1921/75	ゼラチンシルバープリント	32.4×24.6	
写真	マン・レイ	マルセル・デュシャン	1921/75	ゼラチンシルバープリント	35.5×25.9	
写真	マン・レイ	醒めてみる夢の会	1924/80	ゼラチンシルバープリント	28.0×36.4	
教育資料	浜口陽三	「蝶と葉」原版	1972	銅板	各9.0×10.0	4枚組
教育資料	浜口陽三	「蝶と葉」試刷り色指定	1972	カラー・メゾチント、色指定の書き込み、紙	紙寸25.0×25.0	
教育資料	浜口陽三	「蝶と葉」キャンセル・ブルーフ	1972	カラー・メゾチント、紙	紙寸25.0×25.0	

修理した美術作品の一覧(平成14年度)

館名: 国立国際美術館

種別	作者名	作品名	備考
彫刻	松本 薫	(Cycle-90° RIII) 1992年	摩耗部品の交換、 汚れの除去
彫刻	森口宏一	(Facade) 1979年	表面の錆と汚れの除去
版画	O JUN	(臍の図) (「花・TV・コップ」より) 1998年	染みの除去
版画	瀧口修造	(マルセル・デュシャン語録) 1968年	汚れの除去、接着剤の除去
版画	瀧口修造、北川民次、 瑛九、泉茂、加藤正、 刀根山光人、青原俊子	詩画集(スフィンクス) 1954年	汚れの除去、紙の補修
彫刻	マルセル・デュシャン	(トランクの中の箱) 1936~41年	汚れの除去、紙の補修
彫刻	李 禹煥	(関係項 - ふたつの石とふたつの鉄) 1978(90)年	錆の除去
彫刻	ヘンリー・ムア	(ナイフ・エッジ) 1961年	汚れの除去、保護剤の塗布
版画	瀧口修造、アントニ・タ ピエス	詩画集(物質のまなざし) 1975年	紙に付着のテープ(のり)の除去 等

調査研究一覧

館名：国立国際美術館

1. 現代美術の調査研究

名 称	研究者名	内 容	研究成果の公開(発表誌等)	備 考
日本の現代美術の調査研究	宮島久雄	『関西モダンデザイン前史』著	『関西モダンデザイン前史』中央公論美術出版	
		「大阪・町の図案家」	『2000年度サントリー文化財団研究報告書』	
		「原点は「素描教室」」	『今竹七郎とその時代』 誠文堂新光社	
		「「活動文字」は大阪生まれ」	『デザイン理論』41号 意匠学会	
	安來正博	「タイガー立石(荒野の用心棒)」	国立国際美術館月報 No.125	館蔵品紹介
		「ホンネで語ろう-日本の美術館の現状-」	『WALK』45号(2002年8月号) 水戸芸術館ACM劇場	
海外の現代美術の研究	宮島久雄	「カンディンスキーと抽象絵画」	『カンディンスキー展』図録 カサハラ画廊	
	中西博之	「トニー・アウスラー(空気寒柱症)」	国立国際美術館月報 No.123	館蔵品紹介
		「ダニエル・ピュレン(定まらないフォルムの絵画)」	国立国際美術館月報 No.126	館蔵品紹介
	平芳幸浩	『現代美術を知る クリティカル・ワーズ』共著	『現代美術を知る クリティカル・ワーズ』 暮沢剛巳編 フィルムアート社	共著
		『非人間的なもの』ジャン＝フランソワ・リオータル(仏文和訳)共訳	『非人間的なもの』ジャン＝フランソワ・リオータル(仏文和訳) 法政大学出版局	共訳
		「曾根裕 ダブルリバー島への旅」	『美術手帖』2002年9月号 美術出版社	
		「マルセル・デュシャン(L.H.O.O.Q)」	国立国際美術館月報 No.118	館蔵品紹介

2. 展覧会のための調査研究

名 称	研究者名	内 容	研究成果の公開(発表誌等)	備 考
福嶋敬恭に関する調査研究	安來正博	「福嶋敬恭 その動態としての芸術家像」	「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」展図録	作家及び作品紹介
		「年譜・文献目録」		
		「福嶋敬恭(Blue Dots)」	国立国際美術館月報 No.115	
		「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」	文化庁月報 No.403	
		「福嶋敬恭 こころの中のこころ」	月刊マナビィ 2002年4月号	
イタリア抽象絵画に関する調査研究	中井康之	「ブッリ:制作の論理」	「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ ブッリ フォンタナ」展図録	作家及び作品紹介
		「アルベルト・ブッリ(袋)」	国立国際美術館月報 No.117	
日本及び韓国の女性現代美術作家に関する調査研究	加須屋明子	「「他者理解」について - 日韓現代美術展に寄せて - 」	「いま、話そう 日韓現代美術展」図録	作家及び作品紹介
		「チャン・ヨンヘ・ヘヴィー・インダストリーズ(オリエント)」	国立国際美術館月報 No.119	
浜口陽三に関する調査研究	三木哲夫	『「パリと私 - 浜口陽三著述集」』編著	『「パリと私 - 浜口陽三著述集」』	
		「浜口陽三年譜」	「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」図録	

		「浜口陽三参考文献」		
	中井康之	「浜口陽三の色彩論」	「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」図録	作家及び作品紹介
		浜口陽三(パリの屋根)	国立国際美術館月報 No.120	
富山直哉に関する調査研究	島 敦彦	「富山直哉 もののなりゆき、ことのなりゆき」	「富山直哉写真展」図録	作家及び作品紹介
		「富山直哉 等高線」	国立国際美術館月報 No.122	
連続と侵犯展に関する調査研究	平芳幸浩	「ロラン・フレクスナー(無題)」	国立国際美術館月報 No.124	作家及び作品紹介
安斎重男に関する調査研究	加須屋明子	"Shigeo Anzai: swiadek sztuki wspolczesnej"	「目撃者 安斎」展図録	作家及び作品紹介

3. 科学研究費補助金による調査研究

名 称	研究者名	内 容	経費の種別	備 考
科学研究費補助金による調査研究	加須屋明子	「ポストメディア論 - 電子時代における芸術作品 -」	2002年度科学研究費補助金	萌芽的研究、継続
		「四大(地・水・火・風)の感性論」	2002年度科学研究費補助金(代表 岩城見一)	基盤研究 分担者

4. 講演会・セミナー

名 称	研究者名	内 容	研究成果の公開(発表の場所)	備 考
	宮島久雄	「カンディンスキー 色彩の響き」	京都国立近代美術館 2002年6月15日	講演
	安來正博	「瑛九のフォトグラムにおける絵画と写真の関係について」	日本映像学会第28回大会 2002年6月2日 早稲田大学	研究発表
		「第23回国際インパクトアートフェスティバル」に際して	「第23回国際インパクトアートフェスティバル」 2002年8月19日 京都市美術館	講評、講演
	加須屋明子	「現代美術とジェンダー」ジェンダーの視線Part2 ~現代美術・異文化・組織~」	「現代美術とジェンダー」ジェンダーの視線Part2 ~現代美術・異文化・組織~」2002年7	講演
		第一回「写真を「鑑賞する」とは？」	「写真の鑑賞術 - 女と男の「思い込み」を問いなおす -」2003年2月1日 西成青少年会館(大阪)	講演
		第二回「写真の中のジェンダー」	「写真の鑑賞術 - 女と男の「思い込み」を問いなおす -」2003年2月8日 西成青少年会館(大阪)	講演
		「食間の光景 / 食間の廃景」	「食間の光景 / 食間の廃景」 2003年2月16日 八戸市美術館(青森)	シンポジウム